健康コラム

化学療法室の取り組み

秋田厚生医療センター
がん化学療法看護認定看護師　船木（ふなき） 弥生（やよい）

抗がん剤には全身の細胞に作用する従来からの抗がん剤、細胞の遺伝子を標的とする分子標的薬、ノーベル賞で有名になった免疫治療薬などがあります。免疫治療薬は研究が進み、適応するがん種が増えてきました。また、ゲノム医療によって、遺伝子検査でより効果のある薬剤を選択することが可能になってきています。

外来で行う治療方法は、点滴や内服薬、またはこの二つを組み合わせた方法があります。化学療法室では主に点滴の投与を行っています。一つの薬剤を単独で使用したり、作用の違う薬剤を何種類か組み合わせたりして、がんの種類や患者さん個々に選択された治療が行われています。一回目の治療から入院せずに外来で行うことが多く、仕事や家庭の役割、地域活動など日常生活を続けていけるようサポートを行っています。

副作用を知る

抗がん剤は、基準となる投与量が決まっており、患者さんの身長や体重、年齢などに合わせてきちんと計算した量で投与されます。がんに対する効果を考えて、多少の副作用が出ることを予想して投与されます。副作用は、薬の特徴から出る症状があり、症状が現れる時期、回復する時期とある程度パターンがあります。どんな副作用があるのかあらかじめ知り、副作用に対する心構えを持つことが大切です。治療後、何日目にどんな症状が出たのか、何日間続いたのか、一日の回数など日々の経過を覚えて教えていただけると私たち医療者もとても参考になります。

副作用を確認する

外来で行う抗がん剤治療は、副作用を自宅で体験するため、医療者のいないところで患者さんご自身やご家族の方が対処していくことが必要です。化学療法室では、薬剤師のサポートのもと、副作用（食欲不振、嘔気、嘔吐、口内炎、味覚障害、便秘、下痢、しびれ、だるさ、痛み）について患者さんが記録したものを確認したり、直接問診を行ったりして、来院毎に副作用の確認を行っています。何回か経験していくと自分のパターンが分かってくるので、これまでの生活や趣味、仕事など今までしてきたことを続けながら治療をしていくコツがつかめてくると思います。

心身の調子を整え、サポートを受ける

薬の開発やがんの研究が進み、副作用に対する治療方法や予防・対処方法が増えました。我慢しすぎないことや辛いときだけ薬に頼ることも楽に過ごす工夫の一つとなります。副作用以外にも治療期間中の悩みや症状などを聞いて、少しでも安心して生活していけるよう、日々関わらせていただいています。体も心も弱ってしまうとき、対処方法が分からなくなる時があると思います。患者さんとご家族を中心として、様々な職種でサポートを行っています。決して一人ではなく、必要な時にいつでも相談する場所があることを知っていただければ幸いです。

さいごに

病気や治療だけでなく、新型コロナウイルスの流行による制限も加わり、不安定な状況が長く続いています。患者さんはもちろん、一緒に過ごすご家族、また遠方におられるご家族の方々が少しでも安心して治療を継続できるよう努めて参りたいと思います。

★今月のあなたの運勢 2022年9月★ 蠍座（10.24～11.22） 心配事は杞憂（きゆう）に終わりそう。会話の機会を多く持つよう心がけて。おけいこ事やセミナー参加にツキ